

## -第18回便教会総会報告-

今回も東海学園大学養護教諭専攻の学生さん、13名が参加してくれました。次世代に繋がっていくと実感した会となりました。今年は島で1泊2日の軟禁状態（笑）で情報交換、交流を深めることができ、さらに2日目の掃除実習では前日からの勢い、流れがあり、全体がとてもスムーズに流れました。掃除に学ぶ会のベテランたちは学生の若さ、明るさ、ワクワク感に力をもらって終始活き活き楽しく動かれていたのが印象的でした。2日間、寝食、トイレ掃除を共にすることで若者たちは大人の所作から多くのことを学び、気づいたことと思います。夕食交流会では大人たちの所作（気遣い）に応えるべく積極的に動いて、バーベキュー（夕食交流会）を盛り上げてくれました。本土から切り離された島独特の雰囲気や日頃のしがらみを解放し、参加者全員が非日常の流れを楽しみ、温かい雰囲気の良い会となりました。

実践報告は私の教え子、場谷翔汰（バヤ ショウタ）くんが大学卒業後、教師になり、高校時代から始めたトイレ掃除との関わり、トイレ掃除がその場、そのときに果たす役割について話してくれました。「トイレ掃除は人を成長させる糧となっているんだな、しかも絶妙なタイミングで」と改めて掃除の不思議な力を感じました。森信三先生の『人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。』トイレ掃除を続けていると森信三先生のことばが楔となってしみてきます。彼は今、20歳代半ばでこれからが本当に楽しみです。

もう一人の実践報告者は1年半前に愛媛便教会を立ち上げた眞鍋裕介さんです。昨年も奥さま（真理子さん）と二人で発表してもらいましたが、今年のご主人が教師としての学び、気づきを発表してくれました。掃除に出合う前は傲慢だった彼が掃除をし、世話人として動くようになってから、子どもたちの目線になり、素直さ、謙虚さがジワジワと表に出るようになってきたと話してくれました。掃除をしていなかったらストレスフルな生活に追われ、本当の自分、自分はどうのように児童と接するのが見えなくなっていたかもしれません。愛媛便教会の世話人を続けることで自分を見つめ、参加者との交流で世界が広がり、進む道がはっきりしてきたようです。家族4人で掃除の素晴らしさを発信しています。みなさん、愛媛便教会の応援をよろしくお願いします。

トイレ掃除実習では学生たちの変化がよくわかりました。本来持っている持ち味、良さが表に出てくるんですね。覆われていた汚れが取れて便器本来の白さが戻ってくるように、掃除する人の素が表れてくるんです。

最後に、今回もいろいろと大変だったけど、「やって良かった」と皆さまに感謝するばかりです。

便教会世話人 高野修滋

### 感想(メールより)

今年も便教会に参加させていただき本当にありがとうございました。この2回目の便教会に参加したことで私は大きく「変わった」と思います。こんなに自分の心がきれいになったことはありません。あんなに達成感を感じ、笑顔でいれた2日間は幸せです。教育者になるにはまだまだ未熟な私たちを優しく温かく迎え入れてくださり、本当に感謝しています。皆様の優しさ、そして思いやりは私のお手本となりました。そしてトイレ掃除を通して、私は一人ではやりにくいこと、勇気があることも、周りの人と協力することでやり遂げることができることを今回教わりました。やりなさいと指示をしてトイレ掃除をするのではなく、楽しみながら気持ちを込めてトイレ掃除に取り組むことの大切さを学びました。感謝があれば何にでも真摯に取り組むことができると思います。この「感謝」を常に忘れずに良い養護教諭になります！

私にこのような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。“きれいはずっと広がります！”

東海学園大学 3年生